

No. 93

公民館だより

平成 6年 8月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

ご挨拶

館長 山下 清 一

このたび、小室館長の突然の
辞任により、計らずも後任とし
て、館長の職を汚すこととなり
ました。もとより浅学・無力な
者であり、当然ご辞退申し上げ
るべきところ、僭越をも省みず、
務めさせていただくことになり
ました。責務の重さを思うとき、
身の引締る思いでご座居ます。

由良地区におきましても、住
みよい由良の創出など、また生
涯学習についての、関心が高ま
りつつあり、公民館活動の真価
を問われるときだと、自覚して
いるところであります。

諸先輩が永年に亘り築いてこ
られました、由良地区公民館の
伝統と名譽を守り、地区の皆様
に氣がるに利用され、愛され、
皆様とともに前進する公民館を
目指し、微力ながら、懸命に力
を尽したいと考えておりますの
で、よろしくご指導・御鞭撻を
下さるよう、お願いいたします。

館長退任のごあいさつ

小室 哲 寛

この度一身上の都合により、
館長を辞任させていただくこと
になりました。

お引き受けしてから四年弱の

期間ではありましたが、自治会
長さんを始めご熱心な公民館運
営審議会の皆様や、優れた公民
館役員の方々、市の教育委員会
関係の方々、一方ならぬご援助
を賜り、又何より地区の皆様方
の温かいご声援とご協力のお蔭
により勤めさせていただきまし
たことを衷心より感謝し深くお
礼を申し上げます。

この間地域の皆様の大智識に
学び、皆様の郷土愛に励まされ
て、私として楽しくも又やり甲
斐のある日々でありましたこと
を嬉しく感謝致しております。

公民館活動につきまして、
皆様のご理解あるご支援により

体育行事にも文化行事にもサー
クル活動にも、年々盛り上がる
協力を賜り嬉しく存じておりま
す。

私の反省点としては生涯学習
の推進の不充分であります。

根本的な生涯学習理念の学習や
創造的な施策の計画と進ま
ず、町づくり活動も、分館長さ
んに協力いただき、まだ緒につ
いたばかりであり恐縮に存じて
おるところであります。

しかし幸いなことに当地域に
は新しい時代への力強いエネル
ギーと、町づくりに向けての意
欲が沸々と潜在しており、地区
の皆様のご協力を得て将来輝か
しい実践が期待されます。

新館長のもとに由良地区公民
館の益々の発展を祈りながら辞
任のごあいさつと致します。

ご挨拶

主事 酒田 治

今年の夏は思わぬきびしい暑さが続きますが、皆様にはお変わりなくお過ごしですか。

このたび由良地区公民館運営審議会のご推薦及び、市教委の委嘱を受け平成六年七月十三日より山下主事の後任として、公民館の仕事をさせていただきますことになりました。

色々とお話をお聞きして、まず、宮津市の中に公民館活動をされている地区が十三地区あり、由良地区公民館の活動は、ずば抜けてすばらしく、非力な私がどこまで手伝いが出るかと心配しています。

でもお引受させていただきます以上、皆様と共に四五年近くの長い年月を歩んで来た公民館であります、由良地区自治連、各種団体、公民館役員、地区の皆

様の温かいご指導、ご協力を賜り乍ら、美しい由良の文化を守り、微力ではございますが、一歩ずつ前進していきたいと思っております。どうかよろしくご支援下さいますようお願いし新任のご挨拶といたします。



公民館行事報告

由良岳登山

五月晴れに恵まれた四月二十九日、二年振りの由良岳登山が、元気に、和やかに実施されました。

心地よい陽光のもと、萌える若芽、若葉に迎えられ、幼児からおとし寄りまで、急ぐことなく、おくれることなく、若葉をつけた木々の呼吸を感じ、陽春を満喫しながら、舞鶴、宮津市内からの登山者も交え、百名近い賑やかな登山となりました。

大きく成長した区有林の杉林では、心地よい山風に涼をとりながら、顔見知りの方々の交歓も登山ならではの光景です。

一杯水からの急坂は、正に心臓破りの難所です。鞍部まで登りつめると、一気に眺望が開け、

山下 清一

溢れる汗も、苦しさも、拭き落ちる爽快な気分です。

山頂からの眺望は、飽くことのないすばらしい景色です。

南西の方、大江山連峰、大江山より高い霞のかゝった、三岳山。東南には、弥仙山等中丹の山々、東方には、箱庭のような舞鶴湾、空山を前にして、青葉山、北西には、丹後連山、夏の海に交錯しつつあるホワイトブルーの日本海。自然に溶けこみ、忘我の境地を感じることに出来るひとときです。

毎年、登山道を整備して下さる、観光協会の皆様に感謝し、労苦を偲びつつ、下山の途につきました。また登山者にと、沢山のお菓子をふるまってお下された松原寺さまに、厚くお礼申し上げます。

市制四十周年記念

第六回宮津市地区
対抗駅伝競走大会

南部コース九区、北部コース六区計十五区間、距離四十二軒百九十五米で覇を競う、駅伝競走大会が、六月六日好天のもと盛大に挙行され十二地区、百八十名の選手が南北コースで、健脚を競いました。

今年、各チームの力が拮抗し接戦が予想されていましたが、予想をたがわず各區で、熾烈な死闘が展開されました。

南部コースでは、常勝由良チームが、僅差ながら四位と、遂に南部コースの王座を明け渡すこととなりました。

北部コースでは、三区の泉選手が区間賞に輝くなど、選手全員よく敢闘し、総合四位の好成績で、大会を終了することが出来ました。

今年、おり悪しく地区に蔓延した悪性感冒のため、選手が

充分なトレーニングが積めなかった中での善戦敢闘ぶりでした。

選手諸君の健闘を称えるとともに、大会出場にあたり、温かいご理解と、ご協力、ご支援を下さった選手のご家族の皆様を始め、ご声援下さった地区の皆様、誠に厚くお礼申し上げます。

総合優勝 養老地区

- 二位 吉津地区
- 三位 宮津地区東部
- 四位 由良地区
- 五位 日置地区

ソフトボール大会

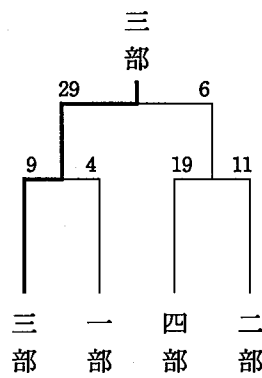
第四回四部対抗女子ソフト

六月十一日

明るく浮かび上がったグラウンドに、今年も元気の掛声や、応援の喚声がひびきました。

この大会も四回目を迎え、選手の皆様が技術も随分上達し、積極的なプレーが続出、ファイナルプレー強打珍プレー等々、ただただ敬服しました。心配された天候も回復し、ソ

フトボールを楽しむ和やかな雰囲気、グラウンドを包み込みました。今年も三部チームが、投打にまとまりのあるチーム力を発揮し、四連覇を果しました。



三部 60 || 6
四部 12 17 || 29
（時間ぎれ）

職域対抗男子ソフト

六月十二日

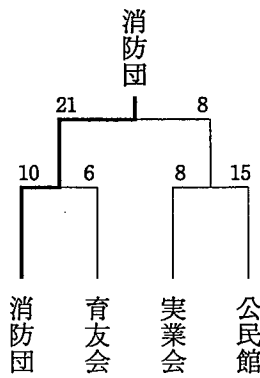
消防団宿願の優勝!!

公民館チーム敗る

ときおり、ぱらつく小雨も、回を追うごとに、選手の熱気で吹き流し、心地よい夜風を受けながら熱戦が展開されました。

試合は、消防団チームが、若い選手を掌握し、強力チームを編成、随所に強打、攻守、好走と他チームを圧倒しました。

公民館チームも、よく敢闘しましたが、リズムの乱れを修正出来ず、永年守り続けて来ましたが王座を遂に、明け渡すこととなりました。



消防団 27 39 || 21
公民館 53 00 || 8



平成六年度

公民館役員名簿

運営審議会委員

(順不同敬称略)

由良小学校長 飯田 和子
 脇自治会長 五十嵐源三郎
 宮本自治会長
 市議会議員 中西 孫兵衛
 浜野路自治会長 中西六右衛門
 港自治会長 藤 本 修
 下石浦自治会長 山下 守
 上石浦自治会長 山下 弘
 市議会議員 山下伊左衛門
 前公民館長 小室 哲寛
 学識経験者 四方 寿朗
 由良小育友会長 竹 田 茂
 栗田中育友会長 北 野 薫
 婦人会会長 大森 婦美子
 老友会会長 中西 吉之助
 子供会連絡協議会会長 小室 秀雄

〔役員〕

公民館長 山下 清一
 主事 酒 田 治

〔分館長〕

脇分館長 室 沢 昭治
 宮本分館長 山 口 正憲
 浜野路分館長 岸 田 博司
 港分館長 山 田 常治
 下石浦分館長 山 下 栄一
 上石浦分館長 岸 田 秀樹

〔幹事〕

(文化部) 部長 田中 一雄
 副部長 岸 田 国彦
 岸 田 正憲 左近 文昭 田原 学
 榑 田 益一 中西 夏江 山 田 康夫
 大森 英正 新宮 鶴雄 山 下 浩二
 大森 婦美子 浜野千鶴子

(体育部)

部 長 浜 崎 利雄
 副部長 山 田 忠雄
 〃 岸 田 美保子
 矢野 善記 小室 秀雄 中西 隆光
 山 元 久紀 田 中 昭彦 森 田 耕二
 榑 田 衛 山 下 正貴 岩 上 伸子
 岩崎 淑子 中西 瑞絵 山 田 美恵子
 木村すなを 三嶋 昌子 森野千代子

〔講師〕

(文化部) 小谷 一郎 中西 俊夫
 (体育部) 小室文雄 北野 薫
 岸 田 剛 瀬 戸 野 吉 也



天気晴朗 全力前進

栗田中学校長 天野 順一朗

挨拶を交わして心涼しけり

「栗田中学校の生徒さんは、挨拶がよくて気持ちいいですね。」

と、交通指導をしておられる宮津警察の婦交さんに言われました。

見る人はちゃんと見ていて下さるんだ、と嬉しく思いました。たかが挨拶ぐらいと思われながらも知れませんが、挨拶を身につけることは、立派な大人になる条件の一つです。

そのような、素晴らしい環境を作って下さっている地域の皆さんに改めてお礼を申し上げます。

どうもありがとうございます。「栗田中学校の卒業生は学力が高いですね。」とある高等学校の校長先生に言われ喜んでます。

本校では、テスト一週間前になると、教科別に質問教室を開いています。

自分で調べ、分からないところを尋ね、目標に向かって自ら勉強することを大切にしていきます。

由良地区の生徒は、列車で帰宅するその時間待ちに教室や図書室で自主勉強もしています。

日頃の授業においても、始業のチャイムが鳴り終わるまでに自分の席に着席し、授業を受ける態勢に入る「ベル着運動」に取り組み成果を上げています。

勿論、教師も、始業のチャイムが鳴り始めると同時に職員室を出て教室へ向かいます。「やる気」を育てることが新しい教育の基本理念です。

栗田中学校は今、新しい学力

観に基づく授業改善に向け指導の転換を始めたところです。

社会福祉協力校として 思いやりの心を育てるボランティアの勉強にも努めています。

一学期には、「青嵐荘」「みやづ作業所」等を訪問し、社会福祉について体験学習をしました。

夏休み前には学校付近の浜掃除を行いました。

又、夏休みには、福祉施設体験学習に多くの希望者が参加申し込みをしています。

いろいろな体験を通して、社会人としての豊かな心や好ましい人間関係が育つことを願っているのです。

近畿地方海の絵画展に十一人が入賞し、海の学校「栗田中学校」の意気を示しました。

美しい海のある故郷を誇りとし、大切にやる心が育っている証しなのでしょう。嬉しいことです。

体育後援会の絶大なご援助で運動部も大活躍（六月現在）しています。

◎優勝

三段跳び（与謝丹後ブロック）
バスケットボール男子（与謝）
ソフトテニス男子個人（与謝）

◎準優勝

野球（宮津市長杯）
ソフトテニス男子個人（与謝）
◎京都府七位
走り幅跳び（通信陸上府大会）

加悦町の桑飼小学校より、一年振りに中学校に赴任しました。地域の皆様方のご理解と人情細やかなご支援をひしひと感じ嬉しく思っています。

心より御礼申し上げますと共に今後とも、ご指導・御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

たくましく生きる力を

由良小学校長 飯田和子

蟬の声を聞きながら、校庭では汗びっしょりになりながらも子供達は元気よく遊んでいます。

子供の数が少なくなり、戸外で遊び回ることも少なくなったと言われている現在、学校でこうした子供達の生活は、貴重な体験とも言えます。

今の社会の変化はめまぐるしく、私達世代が育ってきた世の中とは比べようがありません。この社会の変化に対応し、心豊かに主体的に生きることのできる人間を育てようと、由良小学校では『めざす子供の姿』として、次の三つを考えています。

- 一、やる気もち
- 二、差別をみぬき
- 三、生命を尊び

思いやりのある子供

自分の人生を、主体的に生きていくには、何事にもやる気を出し、自らチャレンジしていくことが大切です。しかし現代は少子化が進み、数少ない子供は大人の中で、大切に育てられています。

昔から子宝という言葉があるように、子供は大切にされてきました。しかし、現代の子育てとは若干異なるようです。

社会のひずみを、もろに受けているのは子供達なのです。大人のひいたレールの上を無難に走らせるばかりでなく、自ら考え行動する力をつけてやらなければなりません。そのためにはいろいろな体験を重ね、自ら考える場を持たせることが重要です。学習にも、こうしてやる気

を出し、自ら学習に励む子供を育てたいと努力しています。

人権を大切にすること、は当たり前のことです。しかし日常生活で、本当に相手の立場に立って物事を考えているのかと思う場面に出会います。

小さなことから、身の回りのことから『人権』という光をあてて、まず差別をみぬく力をつけ、差別を許さない子供を育てようと、教師も研修を深め、取り組んでいます。

先日、高齢者の皆さんと、授業参観とふれあいタイムのひとときを持ちました。

ふれあいタイムでは、子供達の歌や、中西夏江様の「由良の宝」のお話に引き続いての、ふれあいコーナー。ここでは、お手玉作り、竹細工、折紙、百人一首、昔の遊びと、ほのぼのとしたふれあい、世代を越えた、お互いを認め合った上でのおつき合いができた嬉しく思いました。こうしたふれあいを通して、福祉の心が自然に子供達に身につくものと信じています。

又、地区の浜掃除に参加することによって、何気なくほかしていたゴミの後始末の大変さを体験することにより、自分達の生活をも見直す良い勉強をしました。思いやりも学びました。

私は常に、「どこへ行っても通用する力を、子供達につけなければならぬ。」と話しています。由良の子は、おだやかで優しく、言われたことは素直にやってくれます。この良い点を伸ばし、どこへ行っても、さらにたくましく生きぬいてくれるようにしなければならぬと思っています。このような、たくましく生きぬく力は、家庭・地域・社会・学校が一体となって取り組んでこそ効果は上がります。

地域での子育てが、むずかしい時代だとは言われますが、由良地区の子供として、次代を担う子供の健全な育成に御協力の際、よろしく願います。

ご挨拶

由良婦人会長 大森 婦美子

今年度、図らずも会長という大役を受ける事に成りました。

「歴史と伝統のある婦人会の一頁を担っているのだ」と思うと、責任の重大さを感じ身のひきしまる思いが致します。私は期待される様な器で無い事を、自身自身、又家族の者もよく知っているので無事任期を終える事を願っています。そこで、私は責任の重さを発想転換し「私に学習の場を与えて下さった」という様に考え直しますと気持ちも落ちつき楽になってきました。

春の総会ではどんな学習を皆さんと共にすればいいのか、地元を知る事をスタートとして考え、由良に伝わる山椒大夫にまつわる講演を中西夏江先生にお願いし、資料等を準備して頂き学習させて頂きました。学習を

基に史蹟めぐりも計画したいと考えています。

今年「平安建都二二〇〇年」「宮津市政四〇周年」という記念すべき年にあたりイベント等が数多く計画されています。

生涯学習としてより以上に視野をひろげるためにも自ら進んで参加して頂き、会員同志の意思疎通と、自分自身の学習にのぞんで頂きたい事を願っています。又、地域に根ざした活動としては、自治連、公民館等へ微力乍ら協力させて頂き住みよい町づくりの一助と成ることを願っています。宮津市でも定評のある由良婦人会の名を汚すことなく、何事にも前向きに取り組みたいと思っていますので、是非会員の皆さん、地区の皆さんの御協力をよろしくお願い致します。

ごあいさつ

由良幼小PTA会長 竹 田 茂

由良幼小PTAの活動につきまして、日頃のご支援ご協力に感謝申し上げます。名称が育友会からPTAに変わり二年目を迎えました。PTAも世の中の動き、時代に合った活動が求められるのも当然であります。

今年国際連合が定めた国際家族年であります。社会の重要な基礎的単位である家族は、近年、核家族化や都市化が進むにつれて従来の家族のあり方が変化してきております。夫婦共働きの家庭が増えたことにより、家庭内で高齢者を支える人間が少なくなってきました。こうした中で家庭と家族を今一度考える契機とすることが国際家族年制定の背景となっております。『家庭から始まる小さなデモクラシー』これが、国際家族年の

スローガンです。

これは老若男女それぞれの権利や意見が個人として尊重され、そうした考え方が地域や社会全体に広まっていくことを意味しております。PTAでも、母親委員会を中心にファミリートライ(家族で挑戦)というスローガンのもと、家族がそれぞれ目標を持ち、それに挑戦してもらっております。この種の取り組みでは、子供だけが対象でしたが、今回のファミリートライは親にも目標を掲げてもらいました。週休二日制が今後、学校でも一般化され、益々子供と親が家庭で過ごす時間が増えると思えます。国際家族年の今年、家庭や家族のあり方を今一度考え、話し合ってみてはどうでしょうか。

☆サークル紹介☆

舞踊サークル

サークルの名称 磨治会
 会員数 四名
 練習日 その都度きめています
 内容 花柳流新舞踊

梅雨も明け毎日うだるような暑さが続きますが、由良地区の皆さま方にはご健勝にてお過ごしでしょうか。このたび磯野睦子事花柳磨治を襲名させていたいただきました。これからも由良地区の文化の発展のために、お役に立てれば幸いです。

入会希望連絡先

電話 二六一〇七三二二

磯野睦子事

花柳磨治

囲碁同好会

由良囲碁同好会は結成以来、三十数年の歴史があり、毎年参

加する公民館碁会や農協碁会に優秀な成績をあげています。

現在の会員数は十七名で、毎月第一と第三日曜日の午後から生涯学習センターで研修会を開催しております。又、年に二回春と秋に栗田の囲碁同好会の人達と交歓会を開催し、技術の向上を図っております。現在大石六段を最高位として有段者十名、級位者七名の組織で構成しております。年間の行事としては、新年碁会（一月二日）四部対抗碁会（二月）花見碁会（四月）さのぼり碁会（六月）納涼碁会（八月）等があります。白と黒の無限の世界に遊んでみませんか。新規の入会をお待ちしております。連絡先は左記の所です。

石井久由

電話 二六一〇九四〇

川柳サークル

「川柳は人間である」とよくいわれます。人生をよく観察し、人間の情味を詩心として詠み、そうして作句した人の人間性を句の中から読みとることができ

ます。また、川柳は短詩型文芸として十七音字にまとめ詠むという約束ごとがありますが、俳句のような季語は必要とせず、自分の心の赴くままに人間を詠むということはずばらしいことだと思います。

あなたも川柳を始めてみませんか。入会されますと、仲間との触れ合いの中から、句材も生まれてきます。

一、宮津番傘川柳会 会員33名
 二、句会 毎月七日 午後七時
 川柳教室 毎月第三土曜日

三、作句・披講及び添削
 四、電話二六一〇五〇〇

飯沢勉

習字サークル

金封を書かねばならないことって案外多いものですが、その都度、筆を持つとビビッたりし、こんなことから習字をやってみようかなーと始めたのが私たちグループのはじまりです。

それなら、まず基本からという事で楷書の大字から始め、次に中字、いまは細字の稽古に入り毎木曜日夜八時から集まり続けております。

グループの総勢六人、忙しい時など休むことも多いのですが、グループ発足から九年、長いこと続いたものだなーという思いと、いままでやってきたこと、これからも長く続け、自分なりに満足のいく作品をつくることを目標に続けていきたいものと話しております。

世話人 中西 俊大

カメラクラブ

写真集などをみておきますとその素晴らしさに感動し、作者の目のきびしさを感し心うたれることが多々あります。

そこで、不相応にいどんでも、出来はなかなか、そんなまよいをもった者の集りが「カメラクラブ」です。

総勢十一名、毎月の例会には各々が撮った写真を持ちより、批判し合うのがたてまえになっていますが、多くは先輩諸氏の作品をみせてもらうのがおおかたのようです。

けれど同じ趣味を持ったものの集り、写真以外の話題にも花がさき楽しい会です。

クラブでは、日帰りと、一泊の撮影旅行も毎年行っておりま

す。カメラクラブって、こんなグループです。仲間の入会大歓迎。

世話人 中西 俊夫

舞踊「かゞし座」

サークルとは、同好の輪だと若い者から教えてもらった。それなら、我々カガシ座もサークルのうちかと、一人領いた次第。

平成四年十二月号の公民館報に、中西満子さんが発表したように、八人の同好の志が、月謝なし、稽古日なし、出演を頼まれた時だけ集まる程度、一晩の練習は一時間程で、次はおしゃべりに花が咲きます。後はそれぞれが家で練習するので、翌日はすぐ上手になっています。平均年齢六十歳で、引退を口にしたながらもずる引かれるのは、カガシ座への未練でしょうか。

ここで、気前の良いオーナーが現れて、桃割とかむしりと、カツラ小物等用意してくれたら申し分ないのに等考えている、気楽なグループなのです。

連絡先 森田 登代子

「大正琴」サークル

私達のサークル「琴遊会」についてご紹介させて頂きます。会員数は、現在、浜ノ路九名、脇九名の合計一八名。平均年齢六十以上。練習日は、浜ノ路教室は第一、第三火曜日の午後七時から八時三十分まで。脇教室は（公民館にて）第一、第三月曜日の同時間です。

練習内容ですが、童謡をはじめ、唱歌、演歌などバラエティーに富み、美しい大正琴の音色に励まされ、楽しく行われております。難しいのでは……とお思いの方もいらっしゃるかと思いますが、キーにも楽譜にも数字が書いてありますので、思いの外、入り易いかと思います。

ほけ防止の効果もあり、なにより同じ趣味を持つ仲間との集いの場は、和気あいあいとしており、毎日の生活の張りにもつながるかと思えます。二年に一回、春の「おさらい会」や、由

良の文化祭に出演させて頂く事も、練習の励みになっております。講師は、浜ノ路の中西玲子先生で、親しみのもてる、気さくなとても良い先生です。

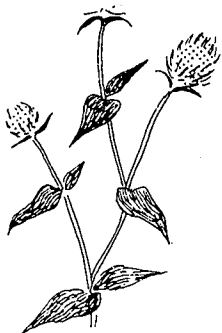
【連絡先】

浜ノ路 中西 悦子

電話 二六〇八〇六

脇 小林 京子

電話 二六〇〇二八



「大正琴」サークル

私達のサークルは、琴修会由良教室と云い、会員数は九名です。学習日は月に二回、第一と第三水曜日の午後七時三十分より十時迄、港公民館で稽古をしています。学習内容は基本練習より始まり、やさしく弾ける大正琴初級編を終り中級編の勉強をしています。又教本の他にプリントとテープを用意していただき、テープに合わせて二重奏で演奏し楽しんでます。先生の熱心な指導により基本がしっかり身につけ、数々の曲が弾きこなせるようになりました。誰にでも手軽に弾けるこの楽器を一人でも多くの方におすすめしたいと思えます。三人以上のグループが出来ましたらいつでも教室を開いてくれます。一度私達の教室へ遊びに来て下さい。

【連絡先】

電話 二六一〇四九六

川崎 富久美

由良の歴史をさぐる会

☆新入会員大歓迎

本会は昭和四七年四月由良神社境内の郷土館開館準備をきっかけに、故今城宮司の呼び掛けで発足した。以来毎月十日午後七時半から郷土館での例会を、二十二年余欠かした事がない。会員は現在十一名。その顔ぶれは僧侶、医者、教師、保険屋、旅館、もと刑事、自衛隊、図書館長……女性が二名。これだけ揃えば大抵の事は何とかなる。モットーは「故きをたずねて新しきを知る」歴史を勉強すると同時に将来の由良と言うより大きく世界、宇宙まで。時の話題を取り上げて皆んなで考え語り合う。熱が入ると時に深更に及ぶ。七月には隠岐へ研修旅行。興味のある方は直接例会へどうぞ。勿論電話も可(〇〇一九番)どうかお気軽に。

四方 寿朗

卓球サークル

平成元年に卓球クラブを再び始めました。
会員数 十五名

練習日 毎週月曜日

場所 由良小体育館

時間 午後八時～九時半

二人揃えば練習が始められ、運動量も結構あります。
栗田の卓球クラブと交流練習もあり、宮津市民卓球大会にも参加します。昨年は団体の部三位、個人戦で優勝や二位と輝かしい成績を納めています。

月曜日に気軽に体育館へ。
お問い合わせは、
電話 二六一〇〇五三
坂下 好美

少林寺拳法

場所 宮津市民体育館

月曜日 多目的ホール

金曜日 柔道場

練習日 一般の部中学生以上

月曜日午後七時～九時

金曜日午後七時～

八時三十分

少年部

月曜日・金曜日午後七時

八時三十分

在籍拳士数 二十六名

一般の部 十名

少年の部 男十一名、女五名

〔入門随時 連絡場所〕

少林寺拳法京都宮津支部道場

少林寺拳法京都

宮津スポーツ少年団

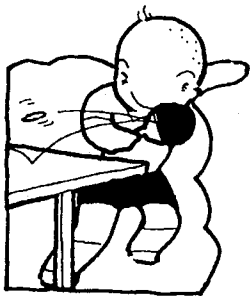
支部長 田中幸男

電話(〇七七三)七六一三四四五

由良スポーツサークル

少林寺拳法責任者

中西 喜寿郎



由良空手道教室

由良空手道教室を始めて七年。現在小学生一〇名、中学生一名、高校生一名、社会人二名で毎週土曜日午後五時から由良小体育館で楽しく稽古しております。

空手道は、他のスポーツと違い、勝敗のみにとらわれず、身体と技を鍛えると共に、心も鍛え、より豊かな人間形成を図るという極めて精神的な要素を併せ持っています。21世紀は心の時代とも言われております。次代を担う若い人達が空手道を通じて礼節を尊び健全な体と心が養われることを目標に稽古しております。入門を希望される方はお気軽にお越し下さい。空手は多くの流派がありますが、私達の流派の名称は「世界松林流」(本部道場沖縄県那覇市)と言います。

電話 二六一〇一三四

竹田 茂

バドミントンクラブ

名称 由良バドミントンクラブ
会員 約二五名
(一〇歳から六〇歳)

練習日 毎週水曜日

夜八時～一〇時

内容 基礎練習及び主にダブル

スゲーム、年数回の研修会

抱負 当サークルは、人数も少

なく活気が今一ですが、年齢や

男女の枠を超えて気軽に楽しめ

るスポーツです。五グラムの球

(シャトルコック)を自由に操

り、二〇〇キロを超えるスマッ

シュが決まれば心は爽快です。

イギリス生まれのスポーツでフォ

ムも美しく俊敏性も養われて若

さを保つ上でも最適です。少し

太りぎみの方には発汗作用も大

きく特にお薦めです。ヨーロッ

パでは男女混合のダブルスが盛

んです。当クラブもヨーロッパ

を目指して居ます。連絡先は、

二六一〇四六六 山田 彰子

二六一〇八二六 山田 博義

バレーボール

毎週木曜日七時半～九時までバレーボールが好きな仲間同志大変いい汗を流しております。

試合は十一月の婦人バレーボ

ル大会を始めとして、与謝地方

バレーボール大会、ソフトバレー

ボール大会と目標を置いて頑張

ています。試合の後の反省会

は、結果に関らずおしゃべりに

花が咲くとおきのおきのティ

ームです。

男性の方も以前の様にお気軽

に遊びに来て下さい。(現在、

男性会員二名)

バレーボールは初めてでも大

歓迎です。家事を終えた一時間

半、私達と一緒に楽しいひと

きを過ごしましょう。

【連絡先】

大森 恵子

電話 二六一〇八二二

神心流詩吟同好会

一、詩吟教室、十四名、憩いの家
二、毎週金曜日(但し月の最終
金曜日は除く)夜七時三十分

三、日本の伝統ある詩吟を音楽

性豊かな近代吟詠芸術(節調、

音程・アクセント・詩心など)

としてサークル活動の中で学

び修得する。

四、生涯学習がますます盛んな

現代に、人生の糧として、私

達詩吟教室では日常の雑念を

一切忘れ、週一回二時間の詩

吟教室で、思い切り腹の底か

ら発声し健康の一助としてい

ます。また、それぞれに職業

も違う老若男女の情報交換、

意思の通う場として練習日を

楽しくやっています。ぜひ一

度覗いてください。

五、電話 二六一〇一六八

山田 常治

又は 二六一〇四七一

北野 まで

文学の見える風景(四)

長塚節と「由良川」の短歌

中西夏江

明治時代の歌人でもた、小説家でもある長塚節(一八七九—一九一五)は、今から八十九年前(一九〇五)の九月に由良の港を訪れています。

節は茨城県生まれの人で、二十三歳のときに正岡子規に短歌を師事し、根岸短歌会に参加。その重鎮として、伊藤左千夫(歌人であり、小説「野菊の墓」で名高い)と併称されました。彼は、夏目漱石の依頼で、明治四十三年(一九一〇)六月から十二月まで、朝日新聞に長篇小説「土」を掲載しました。

「土」は、節の郷里鬼怒川のほとりの自然を背景として、貧窮な農民一家の生活を写生風に克明に描いたもので、わが国の農民文学の記念碑的な作品とし

て高く評価されています。

漱石は、「今の文壇で長塚君を除いたら誰が書けるだろうと物色してみた。すると矢張誰にも書けそうにないといふ結論に達した」「作者は、鬼怒川沿岸の景色や、空や、春や、秋や、雪や風を綿密に研究してゐる。鳥のもの、畔に立つ榛の木、蛙の聲、鳥の音、苟も彼の郷土に存在する自然なら、一點一畫の微に至る迄悉く其地方の特色を具へて——(中略)——其獨特な點を、普通の作家の手に成った自然の描寫の平凡なものに比べて、余は誰も及ばないといふのである。」と述べています。

者自身が農村の生活者であったからこそ、農村のあらゆる面を徹底的に描き出せたのだといわれています。

齋藤茂吉(一八八二—一九五三)山形県の生まれ。東京帝大医科大学卒。医師生活のかたわら作歌。「アララギ」同人となり、左千夫死後、長塚節、古泉千樞、島木赤彦らと共にその主軸として活躍。帝国学士院賞、文化勲章受賞、芸術院会員。歌集「赤光」他多数。歌論書「柿本人麿」他等)は、「長塚氏は好んで旅行をし、旅行の歌を澤山に作った。(中略)旅行の歌には佳作がなかなか多かった。例へば、明治三十八年作(二十七歳)の「驛旅雑咏百三十六首の如きは、今から見ても実に堂々たるもので、既に大家の風格を備へてゐた」とし、その代表作品五首を挙げていますが、その中に、「由良川は霧飛びわたるあかときの山の峽より霧とびわたる」が抄出されています。

「かういふ歌は、萬葉集をよく會得して、旅行の實地を咏むのであるから……」とその表現法の長塚調を指摘しています。

節の全集の中には、
『余は旅行が好きである。年々一度は長途の旅行をしなければ気が済まぬようになった。兎に角全国歩いて見たい積りで、地圖の上に朱線の殖えるのを樂しみの一つにして居る。時には汽車や汽船の便を借りることもあるが、大抵は徒歩である。(略)』と、自ら書いています。

茂吉は更に、
「長塚氏の旅行はそれだから簡易主義で、参謀本部二十萬分地圖雜記帳鉛筆葉書辨當箱ぐらゐの所持品で、それを二包に分けて所謂『両掛』といふものにして肩にかける。それから、脚絆草鞋を穿き、笠を冠り座を着るといふ旅装であった。(中略)かういふ旅行をし、随分長い旅行をしたものである。

この旅行は、西行・芭蕉など

と同じ心の系統で、子規も病気になる前はなかなか旅行をしてゐるのだから、長塚氏もその影響があるのである。(中略)長塚氏の歌は、アララギ風の建立に重大な役割を果たしたと共に、(略)何時も指導的位置に立ってゐたと謂ふことが出来るのである。嘗て橋田東聲氏なども長塚氏を祖術して遊説し歩いたこともあり、(略)「等々、彼に讃辞を送っています。

彼の関西方面への羈旅の歌は、郷里から信州、近江路、丹波路を経て舞鶴、天橋立、岩滝に遊び、宮津から徒歩で、栗田村より由良港にいたる、右は峻嶺笠を圧して聳え、左は海濤脚下巖を噛む」と詞書して、それぞれ新鮮に詠まれています。

(九月)

- 二十四日、由良の港を立つ
- (1) 由良川は霧飛びわたるあかとき
 - きの山の峡より霧とびわたる
 - (2) 暁の霧はあやしも秋の田の穂ぬれに飛ばず河の瀬に飛ぶ

(3) 由良川の霧飛ぶ岸の草むらに
嫁菜が花はあざやかに見ゆ

(1)は、「霧飛びわたる」の語句を二句と結句とにくり返し重ねることによって、川面一めん白い霧が河口へ奔つていく有様を見事に詠んでいます。

朝々、気流にのって限りなく飛翔するあの広大な川霧の勢を一気に歌いあげ、透明で清新な初秋の大气、由良川の霧が生み出すエネルギー、節の青春の自由な呼吸、そういった諸々の力の溢れが五七五の定型に収斂されて輝く一首となっています。

※「あかとき」は「暁」で(明時の意)古くは、暗いうち夜が明けようとする時に用いた言葉ですが、現在では、やや明るくなってからを指します。

私達には、よく見慣れた風景ですが、このように歌ってもらふことによって、神秘的にさえ思われる大自然の営みを再認識しながら感動を覚えずにはいられません。

(2)の「あやしも」の「あやし」は「奇し・異し」で(超自然だ・珍らしい)の意だと思われま

す。暁の霧は本当に見事だ、あたりを白一色に包みこんで悠々と河の瀬を飛んでいくよ——と讃美したのでしょう。

霧は、荘厳さをも含めた超自然的な美観を表現することが出来るようです。

(3)は、こんなに霧ふかい川岸の草むらに、可憐な嫁菜の花がその紫も鮮やかに咲いているのが見える——と、一読してその情景を思い描くことが出来る一首です。

こんなに優しい草花を愛でる歌でありながら、やはり調は高く、韻もすがすがしく感じられます。

以上の三首を何回か声に出して繰返し読んでみますと、私達はおのずと万葉調の表現に思ひ至ります。

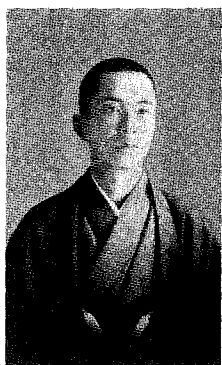
万葉集の有名な柿本人麿歌集の中の、

あしひきの山川の瀬の響るな
べに弓月が嶽に雲立ち渡る

この傑作を思うとき、節が詠んだ「由良川」の歌の調も同じように線が太く流動感が漲っているのを感じます。

私達の由良川を大観して詠まれた「由良川」の三首は、誇るべき秀歌であり、特に「由良川は霧飛びわたる」の一首は、前述のように著名な歌人齋藤茂吉が技粋していることもあって、由良川にも私達の心にも、凜とした清気が満ちてくるように思われ愛誦していきたいものです。

長塚節は、由良の港から四所村を経て、翌二十五日は須磨で詠歌しています。明治三十七年十一月には、大阪―舞鶴間に鉄道が開通していました。



忘れられない私の思い出

中 西 芳三郎

由良の歴史をさぐる会第一号
由良百年史を見ていて「明治四
十年由良川大洪水善後復旧工事」

の記事に眼がとまる。当時私が
小学一年生の夏休み中の出来事
で、ひどい、そしてこれが事実
とは思われない、実にむごい、
二度とあってはならない惨事な
のであった。

激しい雨と風で家にとじこもっ
ていて二日目であったのだらう
か「脇の宮川が切れた」と云う
大人達の騒がしい声に、その時
遊びに来ていた三歳年上の宮津
の従兄に手を引かれて上良の方
へ行こうとしたが道はどろ水が
いっぱい、港の方へ行って見よ
うと思ったが西さんの家の前
は、てんま(木製の小舟)が浮
かんでいた。そこで水無月神社
の境内に行くと、ここも見た事

もない激しい流れに木やごみを
一ぱいのせた泥水が川一面に大
きく拡がって瀧のような早さで
流れていくのを二十人余りの人
が恐そうに心配そうに見ている。

と、家(その頃は草葺き屋根
で、わら、かや、よしなどで葺
いた家が多かった)のみね(棟)
に人が辛うじてすがりつき「た
すけーてー」と疲れ切った、
切れ切れの、かすれ声で助けを
求めながら流されてきた。ああ、
なんとか助かってほしいと手を
合わせたが荒狂ひ逆まく怒濤と
物凄いこの奔流は水戸口では激
しくぶつかって二、三メートル
もの高さだったのだらうか、其
の大きな荒波に乗ったと思うと、
家も人も巻き込まれて見えなく
なった。「あっ」と驚いて思わ
ず両手で目をふさぐ。そっと目

から手を離すと立っている土堤^{どて}
がみるみる崩れていき大きな松
の木が倒れて流れそうだと見て
いると、又屋根に人が縋り付い
たままの家が流されてきた。そ
れからどれほどの間だったのだ
であらうか。又一戸と、こんな怖
いのを見るのはいや、帰ろうと
思っている時、こんどは二人も

棟に乗った家が荒波に吞まれて
行ってしまった、そこへ父が来
たので「あの人可哀そう」と私
は縋り付いてしまった。宮津の
従兄ももう帰ろうと云う。父に
連れられて帰ったが今の事がど
うしても頭からも耳からも離れ
ない。こんなむごい洪水は再び
無いようには出来ないものだろ
うかと従兄に話しかけたが、従
兄は早う宮津へ帰りたいと云う
ばかりであった。今にして思え
ば、彼も恐怖心で一ぱいだった
に違いない。

梅本政幸氏著「丹後の國」に
よると、この丹後の大洪水は被
害甚大、由良川流域で百二戸流

失する、とある。由良は洪水が
あっても住居には浸水する事は
無いと聞かされていたが、この
洪水では浜野路から脇までの旧
國道(小学校前)の山側上良や
港一帯では多くの家が浸水した
と云う事であった。

ここで「善後復旧工事」と特
に書き加えられてあるのに気を
ひかれ復旧工事の跡を小学生の
頃を思い起こしながら辿って見
た。

工事は港の照國稻荷神社から
水無月神社、港墓地(現同志社
中学校臨海学舎)今ある護岸の
線に沿って中西別荘、フィジ
の辺まで決壊の現状にそったの
でしようか、由良石での護岸が
つくられ、水無月神社のすぐ上
には護岸より出し離れて波止め
と高瀬舟の舟停りを兼ねたので
しょうか、一メートル近く水面
に出た沈礁(幅五メートル、長
さ二十五メートル位)がつくら
れてあり、そこから上流照國稻
荷神社迄護岸より一・五メー

ル位外(沖)側に長い木の丸太を打ち込み帆船の繋留場とし護岸との間には自然石で小魚などの生息と護岸の補強とを兼ね更に護岸の上と共に通行も出来るようにするなど、見事と思われ効率的な工法が見られ、ここは永い間帆船の停泊場所となっていた。

かつて幼時の私が眼前に見た、あの恐怖の大洪水と其の直後に施行され村民の要望が生かされたと云う復旧工事の跡を視て歩いている中で、ここが昔(明治前)の由良の港の玄関であったであろうが其の面影も消えんとしているので、おぼろげな記憶でもたどり当時の模様を書き加えて見た。

由良川の川下(左岸)には田辺藩の由良番所(船番所)の跡と云われた所があり又有路以北の藩領からの貢租米を高瀬舟で由良まで運び収納した米蔵がまだ三棟残り使用されて御蔵跡とも呼ばれていた。

この蔵跡の川に向って両側には荷物の積み卸し等の為だったのだろうか、時の主要道上良道より広い幅三メートル位の石畳が敷かれた道が二本共そのまま残っていた。上側の道に沿って稲荷神社との間には油屋と云う五百坪もの大店があつたようであり、大きな倉庫が残されていた。又近くには宮津にもひけを取らないと云うはたご(旅館)も二軒あり其頃なかつた二階建て立派な玄関もしつらえた構えであつた。

この道は府道となり由良、神崎間の渡舟が昭和三十年頃迄あつて無料で利用できた。(現岸田米蔵様前)川下側の道沿いには薩藩後、会社忠兵衛様(運送店)ができ、其頃まだ福知山辺までは高瀬舟が運行され人や荷物が運ばれ重宝がられた。又高瀬舟などか利用されたと云う場所も三箇所ほどあつたようであり、舟の上げ卸しの為丸太が何本も横に敷かれ川縁には大きな榎

が植えられ常に船が繋がれていた。

舞鶴市史編纂委員であつた杉本嘉美氏によると、有路の田辺藩舟継所の資料に由良村川舟持ち二十八名神崎村川舟持ち八名が田辺藩の御用を独占したとあり、寛保二年(一七四二年)の記録には高瀬舟が由良、神崎に一七〇隻、志高一四隻、有路二隻あつたと記されてある。

子供会活動について

子供会連絡協議会会長

小室 秀雄

日頃は、子供会活動に皆様の協力をご頂戴し厚くお礼申し上げます。

子供会活動は、地域において子どもたちが、いろいろな行事を大人の援助を受け、主体的、集団的に行うものです。しかし、最近の子どもたちの様子を見てみると集団で(組織的)取り組

由良の港の千軒長者、船が出るやら入るやらと歌われ、浄瑠璃でも公用され、宝暦十一年(一七六一)記録、船主船もち、船頭金もち、とも言い囃され栄えたであろう事は由良の歴史第二号小谷一郎氏の由良の船頭衆でも窺えるように思う。照國稲荷神社の川側には、菩薩金剛の石像がある。右側に金剛大神と彫られてある。

む力が弱いように感じます。子どもの数が減ったということもあるでしょうが、今の子ども地域での生活は、私たち大人が育った時代とは大きく様変わりし、大勢で遊ぶ姿はほとんど見かけなくなりました。大きい子や小さい子がいっしょに遊ぶ中で社会性を身につけたものです

が、それも難しくなっています。地域での子ども同士のつながりの希薄さは、私たち大人にも責任があるのではないのでしょうか。

「由良の子をどの子も心身共に健やかに育てたい」という願いのもとに親同士がつながり、

地区対抗駅伝競走大会

森 田 耕 二

今回で四回目の出場をさせていただきました。陸上部で中長距離を走っていた高校時代から練習嫌いだっことも忘れて、約一ヶ月の練習で「これを機に目立ってきたおなかのダイエツトもできれば一石二鳥」「何とか十数年前の体力に、走りには、感覚に、少しでも近づけるぞ」と毎年選手依頼を受ける度に、喜んだり決意したりするのですが、結局、仕事の都合で練習に

子供会活動を押し進める中で子どもたちに地域での集団を保障してやりたいものです。

子どもたちが生き生きとした活動ができますよう、今後とも子供会活動に地域の皆様方のご理解とご協力を心からお願いたします。

参加できなかったり（ほかの時間練習すれば良いのですが）、練習メニュープラスαの練習をしないために、ダイエツト効果も現れないまま、あつという間に一ヶ月が過ぎてしまうのです。でも同じペースで三キロを走れる自信が付き、感覚も少し戻ってきた様でした。

大会当日は、仕事の都合で午前中とか休みがとれませんでしたので、由良地区の選手、役員

の方とは別行動をとらせていただき、区間スタート場所へ車で行き、走り終えるとそのまま職場へ向かうというハードスケジュールでした。

個人的には、自己記録を二十秒程更新し、各選手ももっている力をすべて発揮したのですが、由良地区は目標順位には残念ながら到達しませんでした。これは他の地区に力がついてきたこと

駅伝で走った

六年 平 野 裕 一 郎

ぼくは、駅伝の選手に選ばれました。

龍一君や清ちゃんといつも晩（夜）駅伝の練習をしてきました。汗をかきいっしょうけんめいがんばりました。六月五日の駅伝の前二十五日には、試走（予行練習）をし、八区を走ることになり、試走では八分二十

もあるのですが、私のように別行動をとってしまうと、団体行動をとることで生まれる連帯性が欠けてしまい、今回のような結果になってしまふんだと反省をし、個人競技が多い陸上競技種目の中で国際語にまなった「EKIDEN」が、団体種目であることを痛感した一日でした。選手、役員のみなさん、たいへんお疲れさまでした。

四秒ぐらいで走れました。いよいよ待ちに待った駅伝競走大会の日でした。

「用意ドン」と一区の清ちゃんが三位という好成績で、その上、ぼくの八区のラインまで一位で由良は来ていました。

そうしているうちに、新宮さ

今年も登った由良ヶ岳

浜野路 中西 八重子

う着し、次の九区の女の人にたすきをわたしました。

ぼくは、と中まで一位でした。でも朝、熱がありいつものように走れず、二人にぬかれてしまいました。

ぼくは、あかんなあこれじゃあ三人にも抜かれると思ひ、力の限りを出して、走りました。そのせいか、抜かれず三位でと

う着し、次の九区の女の人にたすきをわたしました。

ぼくは顔を真っ赤にしながらたおれました。ジューズをもらい飲むとすっきりしました。結果は総合四位でした。ぼくはもうあかんわあと思ひました。もっとこれからがんばりたいです。

海に向く窓方形のキャンバスとなりて捕える白帆のヨット

海へ行く道

藤 本 史 代

はつ夏の蒲生野駆けむ妻という身の拘束も若葉に溶かし

ポスターの水着の少女に招かれて五月の浜へ夢を追いゆく

深ぶかとひかる五月の香を吸えばすつぽり蒼きころとなれり

潤いも腐食もありて六月の厨に匙のくもりを拭う

雨吸いし紫陽花深く鬩り持ちわがキャンパスの位置に定まる

誘引の支柱を逃れ時計草蔓巻き上げる立夏の空へ

さわさわと空吹く風に揺らぎつつ合歓うす紅の蕊を解きゆく

咲く花も畢るもありて沿線にカノナの花は夏をけぶらす

帆を張りしヨット模したる駅舎よりのびて直なる海へ行く道

私がはじめて由良ヶ岳に登ったのは三十年前、うら若き乙女の頃でした。頂上で缶けりをして遊んだのを覚えています。今年には私にとって何回目の登山になったのでしょうか。由良ヶ岳登山は私と家族の歴史でもあります。

娘が小さい頃は家族そろって登ったものです。途中で何度も休もうと言って駄々をこねた子も、いつの間にか親を放ったらかしにして、友達とどんどん先に登ってしまうようになり、さすがに高校生ともなると、何だかんだと理由をつけて登らなくなりしました。

そして今はそれぞれに巣立ち、遠くから「今年も登るんか。」とエールを送ってくれます。今年もそんな励ましを受けながら、近所の人達と参加しました。

由良小の子ども達がかけ登るのを横目で追いながら、一歩一歩足を運びます。途中の「一杯水」では、子ども達に場所を教えてやって流れ落ちる水をコップで一杯。「おいしい!」と思わず顔を見合わせて一息つきました。

それからの上りがかなりきつく、「何でなんやろ。」と思いつつ、息を切らして登ります。尾根にたどり着いたらあとは余裕で登り、すすきの間をぬけ急に空が開けて頂上到着です。

この瞬間のために人は山に登るのでしょうか。まさに「やった!」という感じですよ。

この感動と、たくさんの人とのふれ合いの素晴らしさを求めて

これからもできる限り登り続けたいと思います。皆さんも是非一緒に。

蛇足ながら標識の整備が望まれます。

四部対抗

女子ソフトボール大会に出場して

去る六月十一日ソフトボール大会が行なわれました。

私は、今年で二回目です。

去年、ソフトの試合に出てほしいと言われた時は、中学校の球技大会でピッチャーをして以来うん十年もたっています。バレーはまだしも、ソフトなんて全く自信がありませんでした。補欠！ でなければ、レフトで九番バッターでならという約束つきで出ました。練習の時は、全くグローブに球が入らないし、バットには当たらないし、ひどいものでした。

でも試合になれば、不思議な

間 縞 幾久代

もの、毎回塁に出て、ホームベースをふむのです。

今年も去年の特訓の成果があつて、去年よりも少し上手になつていたし、気持ちよくプレーができました。

それに去年は、バッターボックスに立つと、ドキドキしていたのに、今年はそれがありませんでした。

ソフトボールは、全身運動なんですネ。あくる日(すぐ痛くなるのは、若いんだな。と、喜びながら)全身がいたくて、何をするのも大へんでした。

イヤだと思っていたスポーツ

もやってみれば、けっこう楽しいものです。みなさんも、積極的に参加して下さい。

ソフトボール、バレーに、私も、出場させてもらって、いつも、優勝の感動を味わえて、とてもうれしいです。

年々、他の地区も若い人が出

祖父母参観の案内くばり

六年 小 松 由 弥

今日は、祖父母参観の案内状配りが有りました。私は、樹里ちゃんや広邦君と、三人で配りました。紙を仕分けしている時、皆と一緒に、

「たくさんの人が来て下さるかなあ。」

とか話していました。

配る前に、その時の言葉を確かめました。私を除くと二人共初めてだったからです。

「『こんにちは。六月二十二日

てこられ、力には負けそうですが、おばさんの動じないパワーで、まだまだ押せ押せ状態です。スポーツは、好きな方ですから、又、機会があれば、いろいろなことに挑戦したいと、思っています。

に祖父母参観が有ります。この紙に詳しく書いて有るので、是非、来て下さい。」って言おう。」と三人で決めました。「いろいろ聞かれたらしっかり答えよう。」と思いました。そして配り始めました。

「こんにちは。」

と行きました。そして言葉を言いました。

「ありがとう。一けん、一けん配っとんか、ごくろうさん。」

と言って下さった人もおられて嬉しかったです。「たくさん来て頂けるな。」と思いました。

でも、留守の家も有りました。私は、そんな時いつも、「見てもらえるかなあ。」と思いましたが。ポストに入れる時、目立つように紙に入れたりしました。他の人も細かい所に気を配って、

皆熱心でした。「たくさん来て頂けるな。」と確信しました。

今度は、申し込み書の回収です。その時、申し込み書がたくさん出ればいいです。たくさんのおばあさん、おじいさん方に参加していただいて、楽しんでもらえばいいなあと思えました。

川 柳

宮津番傘川柳会

笹舟で渡る暮しに明日がある

漫画の絵描いて人生黄昏れる

ああ青春まっ赤な夕陽いとおしむ

黄昏の波はささやくペアルック

風に触れ褪せた疑惑がよみがえる
滑らせた口から崩れいく虚像が

田村 キヌエ

大森 美智子

飯 沢 鳴 窓

浜 掃 除

六年 塩 見 摩 由

「二列に並んでよ。」
と小さい子に言い聞かせました。
今日は八時から浜掃除でした。

委員長の一浩君は、野球の試合で勝ったので、今日は次の試合が行なわれる事になって来れなくなりました。私は、副委員長なので、「がんばらなくては。」
とはりきりました。

五十嵐のおじさんは、
「空きカンもビンも、燃えるゴミも、いっしょに入れて。」
と言われました。

浜に着くと早速ゴミを拾いました。

ゴミには、ありとあらゆる物がありました。空きカン、ビンはもちろんの事で、洗ざいやつりざおのカバー、くつ、サンダル、発泡スチロールなどがありました。

五十嵐のおじさんや、教頭先生は、
「何でこんな物まで。」

とあきれていました。

と中、校長先生が来て下さって、そうじを手伝ってもらいました。

先生が突然、

「なぜ、こんなにゴミが多いか分かるか。」
と聞かれたので、

「草や木などの自然の物は何の害もなく自然へ帰るけれど、カキやビンは、サビなどを出しながら何年も残るから。」
と答えました。

そして終わってから、「日本は、ゴミ問題の対策をどうしているのか。」と思えました。

郷里に於ける澤井市造話題(八)

作 中西 孫兵衛(先々代)

由良の歴史をさぐる会 四方 寿 朗

勿論承知して居ますと答えました私は舞鶴より帰宅するや否直ちに忠夫をして澤井君手許へ出勤させ舞鶴にて着手とは言へ只準備に取懸りたる迄にて帳簿の拵え事務所の設備材料の置場借入位の事にてありき二十日程忠夫従事して間もなく組長沢井君命令の下に台北支店員となり渡合せり

但し忠夫の件は三十六年なりとかと覚ふ

出され出で、聞きましたが此度は公然御話申上ても立派なる用談です夫は由良の学校(寄附金も致さんと思ふが何程にて可なるやとの問にて恰も此時弥蔵氏二三日前より工事遊覧旁々来会せられたれば如何なる物かと私より試問せしに同氏は指を貳本出した市造君之を見て金位は何程かと尋ねられたから私は貳百円の事ならんと答えたれば少なきはなきやと申されました弥蔵氏によるしからんと言ふ「ソレデハ中西君取計ひを頼む用事は此度は是れだけなり今晚は一泊し明日は弥蔵と共に工事を見物して帰り呉れとの事私は俵が待たせてあればとて直に辞し去れり(其二)

舞鶴より呼取られた内の一面に

「オレモ退隱の住所は由良とする積なれば屋敷を見立て置たしと思ふ岩穴の稲荷前の附近は坪何程にて相談が出来得るか一応調べ呉れとの話其時私曰く夫れも承知せしが藤吉方の事に付是迄数度申出で居る通田畑を買与して居宅も亦市造の産れ里として格好したるものを拵えて譲るも親たるものゝ義務ならん貴意如何と申出たれば実は大石が屋敷を譲りてもよろしと申した事もありつれど藤吉の屋敷ならば現在の儘にて差閫なしヲレが住む屋敷には大石のにては狭く又ヲレが藤吉と一ツ屋敷内に住居せば藤吉が困るならん今の処にては彼が素行修らず仮令幾分か物を与ふとも幼児に花を持たせたと同じたヲレも産れた家は繁昌して貰ひたしと其相談をもしたが一向要領を得ないので困つたものだと憤然として語られたれば私も自然気の毒の情を生じ以上追究するの勇氣も出でざり

き稲荷前の地所を尋ね見しに老坪貳円以上貳円五拾銭位との事沢井君は老円五拾銭と言ひ其間大なる隔差にて調談の運びに至らず君も相当の屋敷あれば松下に於て持たしたしとも申居られしかば此話は自然立消となりぬ順序顛倒すべけれども地所購買に關し話前に帰る始め中西六右エ門氏瀬左衛門嶋を買取りたるに付沢井君は羨望止まず譲り受の交渉を依頼されしに依り尋ね見たるに六右エ門氏の答に五百圓位利益を附したらば考ふべしとの事にて此話も立消たり又大森清四郎が中西長左衛門より家屋敷を買取りたる時にもヲレも欲しかった大森に譲らるゝや尋ねて呉れとの事にて尋ね見しに何分貸金も差別に加へ此金に利足あり是等共に今日迄の利息を加算せば何時にても譲るべしと澤井君は価格の高下には不抱利益を取られたといふ事が感情を害したかと思え口銭を出してまでの事なれば断念すべしといへり

今一つ跡戻りの話をせん大坂市に内國勸業博覧会が開設された時私が見物に出て居ましたら藤吉氏より昨今親父帰郷中に付近日登坂面談すべければ御迷惑ながら着坂まで滞在せよとの書状

来れり待つ事兩三日偶々電話にて只今着坂せり御宿福井さんへ伺ひ出て差支なきやとの事私よりは今晚此方より御訪問申上ると答へ置約を履み福井尚と同伴にて今橋通なる紫雲楼方を訪ひ面会互に寒暄の挨拶了るや「ドウダ國では君が大将だけれども此大坂ではヲレが豪らからしかな」と云はれ何々として大笑す私は「馬鹿云へソソナ事は相場がきまりて居るわい時に要談は「ウン舞鶴線はヲレがやるのだ」「それは重畳」「それに付君を煩はせるぞ否やを云ふなよ」「何に僕なぞが間に合ふものか併し身に適する役があらば敢て犬馬の勞は盡すべし」「ウン頼むよ」「用事はそれだけか」「ウンそれだけだよ」其後は三人鼎坐し

て彼談じ我語り談論漸く佳境に入り時辰器十二點鏡を報するに驚き兩人辭し帰れり空しく三日間を費しての滞在用件は斯の如し豈亦た高価ならずや

(拾巻)

明治三十八年日露戦役交戦中に當り國債募集数次に涉り第二回募集に付由良村に係る義務配當額は壹萬円となる当時壯者を家を捨て戦陣に立ち後援者は老少婦女に止まり拳國一般の事とは云へ此募集も今後幾回なるか豫知し難く今にして回顧すれば戦争の悲惨事たる転た寒心に耐えず却説此壹萬円は如何にして応募すべきや素より國民の職務たる事は夙に村民の承知する処進んで応募すべきは理の当然なるも経済に関する事は容易ならず村の有力者額を集めて擬議に時日に移したり茲一つ澤井氏を煩し見んとの事にて私は其節所用にて出鶴其席に列せざりしが此使命を齎して大石良直氏出鶴澤井氏に懇談されたりしが沢井氏

は按分比例となるものなれば悉皆請るとしても三千円餘りの事なるべしと答へられ去れば皆頼むと大石氏は使命を全くして帰村せられしといふ

茲に特筆大書ふべきは此返事を聞きたる村の人々の悦び名状すべからず積愛雲散真に夢かといぶかり沢井氏は救世主なり佛菩薩の権化なりと絶叫する声喧く大字由良より石浦に至る人々今に於て澤井さんの恩澤は肝に銘して忘るべからずといへり然るに他村の人之を傳聞し猜疑の念を生じ郡長に對し他町村募集上差悶を生すべき旨故障を申出たるやにて當時の郡長山縣執之助氏態々由良へ出張せられ國民の義務には上下貧富の差別なく上下一致各其分に應じ奉公の至誠を捧ぐべき又後援者たる義務を果す為必分の戦費を貢ぐこそ当然たるべく独り沢井氏一人に全責任を負担せしむるが如きは其當を得ずと諭されしが私は甚だ了解に苦しみ奇怪なる事かなと

思ひしかば郡長に向ひ抑も國債は賣買も譲渡も出来ぬものなるか又微力者は資力者の力を借りて國民の義務を果す能はざるものや苟くも國資を貢ぐに有志者の資本は通用せざるものかと

質問したるに「イヤ左様でない當村は當村だけの配當高の満つる迄上下力を協されたしといふ意なりと私は重ねて然らば三井岩崎様へ御願して配當高を欠かざる事にせば如何是も亦た不可なりやと念を押したるにイヤ何方にてもよろし不足なき様充実せば可ならんと云はる私は去れば國民の本分を忘れない様にせよとの御諭告なりやと問ひしに如何にも左様との事にて一向要領を得ず何の為に態々來村されしにや

事業計画

平成六年度

〔文化部〕

- 盆踊り大会 八月十四日
- 芸能サークル発表会 十月十六日
- 文化祭(婦人会と共催) 十一月六日
- 同和学習 一月二十二日
- 区民囲碁大会 二月五日
- 自治学級 二月十二日
- 生涯学習講演会(婦人会と共催) 二月二十六日
- 生涯学習講座 (高齢化社会懇談会を含む) 年三回
- まちづくり座談会 (分館毎) 年六回
- 生活改善打ち合わせ会 (自治会婦人会公民館) 年一回
- 歴史の館ネットワーク (歴史をさぐる会) 年一回
- 文化財保存会 随時
- 公民館だより発行 年間三回

〔体育部〕

- 由良岳登山 四月二十九日
- 宮津市地区対抗駅伝競走大会 六月六日
- 四部対抗ソフトボール大会 六月十一日
- 団体対抗男子カットボール大会 六月十二日
- みやづビーチバレー'94 七月二十四日
- 球技大会(野球ソフト) 八月十四日
- 区民フィットネススポーツ交流会 十月十二日
- 宮津市民駅伝競走大会 十一月三日
- 宮津市民卓球大会 十一月二十七日
- 市民フィットネスクラブ交流会 十二月四日
- 宮津市民綱引き大会 十二月四日
- 区民一般男女バレーボール大会 十二月四日
- フィットネススポーツ教室 随時



編集後記

小室前館長におかれましてはこのたび、新しい任務に就任されるため、真に残念ながら公民館長を辞任されることになりました。

平成二年十月以来、由良地区公民館長として、溢れる情熱と卓越した指導力を発揮され、公民館の育成発展に、大いに寄与されました。心から敬意を表しますと共に、お礼申し上げます。今後とも、ご健康には一層ご留意下さり、ご精励下さるようお祈り致します。

今号は、初めての試みとして、地区で活動されている、スポーツ、芸能等、多彩なサークルを紹介しました。自分の趣味を広め、自己の再発見のために、また、触れあいの場として、お気に入り入門を叩いてみませんか。

(山下記)